

A-1	事業シート（概要説明書）		令和6年度
事業名	学校ICT整備・教育推進事業		
予算事業名（細々目）	学校ICT整備事業・小学校一般管理事業・中学校一般管理事業		
施策の大綱	こどもがすくすく育つ明るいまち	事業開始年度	令和2年度
施策体系	学校教育の充実	部 名	教育委員会
施策項目	確かな学力の定着と健全な心身の育成	課 名	学校教育課
根拠法令等		担当名	学校づくり担当
事務区分	■自治事務 □法定受託事務	作成責任者	藤本 隆

○事務事業の計画

実施の背景	児童生徒のICT教育については、情報を活用する能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の習得などを目的として、これまでも小中学校に児童生徒用パソコンを整備するなどして、パソコンの基本操作やインターネットでの情報検索、授業におけるオンライン教材の利用などの情報教育を行ってきました。 さらに、令和元年12月には、児童生徒1人1台端末と高速の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する、という国のGIGAスクール構想が公表され、これを推進するための取り組みを実施していくこととなりました。		
	児童生徒1人1台端末と高速の通信ネットワークを一体的に整備し、児童生徒の言語能力や情報活用能力（情報モラルを含む。）などの、学習の基盤となる資質・能力を育成するため、以下のような学習を推進していく。 ・調べ学習・・・課題や目的に応じて、インターネット等を用いて様々な情報を主体的に収集・整理・分析する。 ・表現・制作・・・推敲しながらの文章の作成や、写真・音声・動画等を用いた資料・作品を制作する。 ・遠隔教育・・・外部との連携や、遠隔地の子供たちが多様な考えに触れる機会や、長期欠席中の子供と教室をつないだ学びの実施など。 ・情報モラル教育・・・情報・情報技術を活用する場面（収集・発信など）が増えることにより、情報モラルを意識する機会が増加することへの対策を実施する。		
事業概要	対 象 (誰・何を対象に)	市内小中学校7校に通う児童生徒	対象者数（全住民に対する割合） 1,020 人 (4.76 %)
	実施方法	■直接実施	
		□業務委託 又は □指定管理（委託先又は指定管理者：）	
		□補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体：）	
		□貸付（貸付先：） □その他（）	
	事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）	事業費 活動指標
	○ICT環境整備・・・児童生徒1人1台端末、高速通信ネットワーク、教師用タブレット、電子黒板等の環境整備を行う。 ○ICT学習の推進・・・xSync Classroom（画面共有）、MicrosoftTeams（意見交換・データ共有）、ReadingProgress（英語音読）、Padlet（意見交換・共同編集）、Canva（プレゼンテーション・画像編集など）、AIドリルなど、様々なアプリケーションを導入し活用することで、学習効果を高める。 ○情報モラル教育・・・情報モラルや家庭への端末持ち帰り時のルールを記載したリーフレットを作成したり、道徳の時間を利用するなどして、指導を行う。 ○ICT支援員の配備・・・大月市、上野原市、小菅村、丹波山村の2市2村で支援員を1名雇用し、共同で運用する（令和2年度～）（令和3年度以降上野原市が脱退し1市2村で共同雇用） ○ICT担当者会の実施・・・各小中学校のICT担当教諭やICT支援員、教育委員会職員による担当者会を開催し、意見交換等を行う。（令和2年度～）		
	関連事業 (同一目的事業等)		

○事務事業の取組

		令和6 年度（予算）			令和5 年度（決算）			令和4 年度（決算）			令和3 年度（決算）				
コスト	事業費合計	109,655千円			23,865千円			26,956千円			12,728千円				
	事業費内訳 （令和5年度分）	支出内容					経費	支出内容					経費		
		委託料	システム保守管理					8,983	修繕料	パソコン等修繕					626
		賃借料	パソコンリース料					7,816	備品購入費	特別支援教室用モニタ購入					304
		使用料	AIドリル等使用料					3,222	消耗品費	各種消耗品					41
		役務費	電信電話料（インターネット通信料）					2,874	※令和6年度については、サーバ更新等により事業費が増加						
	人件費	正職員	0.25人	1,716千円	0.25人	1,716千円	0.25人	1,724千円	0.25人	1,607千円					
臨時職員等		1人	2,861千円	1人	2,169千円	1人	1,890千円	1人	1,387千円						
人件費合計		1.25人	4,577千円	1.25人	3,885千円	1.25人	3,614千円	1.25人	2,994千円						
総事業費		114,232千円			27,750千円			30,570千円			15,722千円				

財源 内訳	国県支出金	0千円	1,777千円	0千円	0千円		
	国県支出金の内容 公立学校情報機器活用支援体制整備費補助金						
	地方債	0千円	0千円	0千円	0千円		
	その他特財	71,065千円	906千円	8,702千円	562千円		
	その他特財の内容 ふるさと大月応援基金繰入金、ICT教育支援員共同配置費負担金						
	一般財源	43,167千円	25,067千円	21,868千円	15,160千円		
財源合計		114,232千円	27,750千円	30,570千円	15,722千円		
事業 実績	活動実績	【活動指標名】	単位	令和5 年度	令和4 年度	令和3 年度	
		ICT支援員 活動日数	日	108	105	88	
		ICT担当者会 開催日数	回	2	4	5	
		※主なハードウェアの整備状況 ・児童生徒用1人1台端末・・・1,221台 指導者用タブレット端末・・・70台 電子黒板・・・56台(全ての普通教室に配備済)					
	単位当たりコスト	総事業費	／	児童生徒数	千円	26	28

○事務事業の評価

事業成果	成果目標 (指標設定理由等)	・児童生徒1人1台端末、高速大容量の通信ネットワーク、教師用タブレット、電子黒板等のハードウェアとソフトウェアを整備し活用することで、児童生徒の言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）等の、学習の基盤となる資質・能力を育成するための学習を推進する。
	成果 (目標達成状況)	主な活用事例 ・自分で作った俳句に画像を添付して作品に仕上げてみんなに発表する、といった工程のなかで、言語能力や情報活用能力を育成することができた。 ・音読の課題をAIで自動判定できるので、正解率を上げようと進んで音読に取り組むなど、学習意欲を向上させることができた。 ・グループ学習では、課題について自分で調べて資料を作成し、グループで発表、意見交換を行う、といった工程を端末や電子黒板を使用することで、情報活用能力を養うことができた。 ・図工の授業で作成した作品をアプリ共有し、発表することで、活発な意見交換を行うことができた。 ・電子黒板でデジタル教科書を静止画だけではなく動画を再生することで、児童生徒が理解しやすくなった。 ・同じ中学校区の小学校や他市の小学校などとオンラインで結び、英語などの授業を合同で行ったりすることで、交流する機会を設けることができた。 ・欠席した児童生徒にオンラインで朝の会や授業の様子を共有するなど、学びの機会を提供することができた。 ・児童会や生徒会の総会や選挙をオンラインで実施するなど、ICTを活用し新たな試みを実践できた。 ・情報モラル教育について、独自のリーフレットを教育委員会で作成し児童生徒や教職員に配布したり、学校集会で情報モラルについての学習会の実施、調べ学習の際に肖像権や著作権について触れる、道徳の授業でSNS利用の注意喚起を行うなど、積極的に取り組みを行うことで情報モラルの大切さを学んでいる。 ・元教員で地元の学校にも勤務経験のある方をICT支援員として雇用することができているため、学校現場を知る立場での教職員に対する支援や、小学校低学年に対するタイピング指導など、ICT教育の基礎となる部分についても熱心に指導しており、学校からも非常に好評である。 ・ICT担当者やメンバーが参加するSNSなど、現場からの声を直接聴く機会を設けることで、現場からの要望にも積極的に対応することができた。 ・ICT担当者会のメンバーとなっている先生が、市内の教職員向けにICT活用について多岐にわたる独自の情報発信を続けてくれている。7月には通算900号を超えるなど、市内小中学校のICT推進を牽引してくれている。 ・Microsoft認定教育イノベーター（全国で500名、毎年更新される）を2名の先生が取得するなど、先生方も非常に熱心にICT教育に取り組んでいる。
	自己評価 課題 今後の方針 (事業の有効性、効率性、必要性の観点)	・ICT教育については大月市の教育の柱の1つと捉えるなかで、日頃から積極的に指導者用デジタル教科書と電子黒板を組み合わせた授業を行うなど、ICT機器を活用した効果的な授業を行うことで、子どもの学びに非常に役立っている。 ・児童生徒1人1台端末や高速通信ネットワーク、教師用タブレット、全ての普通教室への電子黒板整備といったハードウェア面の整備に加えて、さまざまなアプリケーションの導入、AIドリルの利用など、ハードウェア・ソフトウェア両面での整備をこれまで実施してきたが、今後も継続的に更新していくことが課題となる。 - また、通信ネットワークについては、授業などでの端末利用頻度が高くなるにつれ、回線の容量不足が深刻となっているため増強を図ってきたが、児童生徒用の電子教科書導入やCBT（コンピュータを使った試験方式）への対応など、新たな取り組みに対応していくためにも、さらなる回線増強が必要となる。
	比較参考値 (類似事業例など)	
特記事項		



コロコロコミックという少年マンガに「キャンパ! ねえ太」 という作品が登場(ネーミング!)。タサ鬼をCanvaで「デザしめる」というストーリー。男の子たちの中で、Canvaの認知度が假か上がっているものと思われまふ。



低学年も手書きでカンタン!〜係紹介Canvaってまふ!

◇今年度の東小、Canvaの使用率がグンと上がっています。
「校長先生が先頭に立ち、Canvaを使う姿勢を見せてくださっている」
そのことが大きなきっかけとなっているのは、間違いないですね。

◇同時に、「先生方がCanvaのよさを実証している」ことも事実。
「そんなに簡単に素敵なものが作れる!」
それを知ったら、使う以外の選択肢はありまふよね。

◇先日は、美登先生に5年生の換装を見てもらいました。
Canvaをチャチャと使っている子どもたち。
美登先生、「すばいずね」と驚いていました。

◇昨日は蘭丸先生の代わりに2-2にいらした、裕子先生からお声が。
お隣組さんが、係の紹介カードを作ったところでした。
こんなふうに、手書きでもいい感じの
作品に仕上がります。
写真も入って、なんとも素敵です。

◇高学年は高学年なりに、低学年は
低学年なりに、使いこなすまふ。
お互いの作品を見ることも、いい刺激
にー。ぜひまた「学級の広場」で
共有していきたいまふ。



成績出欠管理・国が共通システム促進 小中学校の負担軽減政府は公立の小中学校の教員が日常業務で使うシステムについて、都道府県単位での共通化を促進する。生徒の成績・出欠を管理する書類の書式や組み込み機能をもろろ、クラウド対応によって教員が柔軟に働ける環境をつくる。国が主導してデジタル化を進め、学校現場の非効率な事務負担を減らす。25年度までにフックスや

押印を全廃、クラウド活用による成績管理などの校務のデジタル化は26年度までに100%にしている目標を掲げる。将来的に学習用システムと校務システムを統合することも視野に入れている。



中学年は係紹介のCanvaもステップアップ

◇先週ご紹介した2年生の係紹介。
共通のフォーマットに、手書きで書き込み。
低学年らしく、それぞれいい味が出ていました。

◇今日は4年生の同じく係紹介のカード。
どれも工夫が凝らされています。
中学年になると、内容がステップアップしているのがわかります。

◇具体的に言うと、次のような点です。
・自分たちでフォーマットを選んで、手書きでデザイン。
・フォントを選んで変えている。素材を使っている。

◇これくらいできるようになると、ほんと凄いです。
「じゃあA4紙で、Canvaで作っておいでね」
先生の指示は、これだけです。

◇Canva「なし」だ、どうでしょう。
先生が教える用紙、切り、子どもたちに配り、また集める...
こうみると、Canvaを使うことで時間短縮になっているのがわかります。
「履も様もれば...」で働き方改革にもつながります。

◇何よりいいのは、子どもたちの作る意欲がとて高いということ。
楽しみながら、カードを作ることが出来ています。



評価額4兆円突破「Canva」の34歳CEO、資産のほぼ全てを寄付へCanvaは「Pledge 1% (1%の賛い)」と呼ばれる、自社の時間や資金、株式、リソースなどを慈善活動に充てるというムーブメントに参加している。同社は、現在6万の学校と13万の非営利団体と連携している。また、同社は、印刷注文を1件受注することに樹木を1本植える活動を行っており、これまでに200万本を植樹している。



Canvaのプレゼンで伝え合う子どもたち

◇TED (Technology Entertainment Design) ってご存じでしょうか。
ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブズのような著名人による講演やスピーチ。
それを開催している団体で、Youtubeなどで見た方も多いのでは。

◇画像や動画を駆使してプレゼンをするものが多いです。
「Show & Tell」
その見せながら話をするというスタイルです。

◇突然ですが、これがなんだからかわかりますか?
そんな風に、聞いている人に聞かずに始まるプレゼン。
素敵じゃないですか?

◇何を隠そう、これ、昨日の4年生の教室での一場面。
TEDじゃないです(笑)
4年生、中2の時間に「おたねタイム」としてスピーチをしています。
Canvaで作ったスライドを見せながら話します。

◇質問も含め4分間。実質スピーチは2〜3分といったところでしょう。
教科のスライドを使って、調べたことなどを発表します。

◇身近な話題が多く、子どもたちに親しみやすいので質問もたくさん。
自然と対話が生まれます。
おかりやすく伝えるための、プレゼン能力も必要となります。
とてもいい時間でした。



Jamboardからの移行ガイド付き「FigJam授業実践ガイド」を公開〜Google for Education / 文科省、次期ICT環境整備方針の素案を検討〜必要なネットワーク速度を確保、大型・高性能な大型提示装置など / 「探究! 個別最適」を支える情報活用能力〜泰山裕教授(中央大学)と三井一希准教授(山梨大学)が登場



Padletの写真や画像でイメージをより伝えやすく

◇蘭丸先生が、2年2組でPadletをやったと教えてくれました。
「ビジュアルがいて、まずは自分の顔をカメラで撮影」
その下には、好きな色を書きました。

◇次は「好きな食べ物」。
画像検索すれば、写真が簡単に見つかります。
テキストだけでなく、より分かりやすく伝えますね。
子どもたち、とても楽しんでやっていたそうです。

◇2年1組も、裕子先生がPadletを作っていました。
「こんなもの見つけたよ」 何を思ったかよくわかります。
低学年でも、写真を上手に使うと素敵なものが出来たりするまふね。

◇昨日のCanva体験セミナー、Padletのことも復習。
ご参加の森先生、休田先生、ありがとうございました。
少人数で、じっくり学んでいただくことが出来たと思います(笑)

◇画像だけでなく、動画の挿入もやってみました。
外国語の授業などで、とても良さそうです。
授業やその他の機能も試してみました。

◇「何度でも何度もやってみよう」
休田先生がおっしゃっていました。繰り返し使うことで、スムーズに使えるよう
になっていきますよね。私も自身も勉強になりました。ありがとうございました。



